

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 8 月 16 日 (2007.8.16)

【公開番号】特開 2006-187697 (P2006-187697A)

【公開日】平成 18 年 7 月 20 日 (2006.7.20)

【年通号数】公開・登録公報 2006-028

【出願番号】特願 2005-20 (P2005-20)

【国際特許分類】

B 0 1 D 36/00 (2006.01)

C 0 2 F 1/32 (2006.01)

C 0 2 F 1/52 (2006.01)

C 0 2 F 1/72 (2006.01)

【F I】

B 0 1 D 36/00

C 0 2 F 1/32

C 0 2 F 1/52 E

C 0 2 F 1/72 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 7 日 (2007.6.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被処理流体中の被除去物を凝集、被除去物を捕捉結合した生成物を生成させる生成手段と、前記生成手段により前記生成物のサイズを前記被除去物のサイズより大きくし、前記生成物が通過できない目開きを有するろ過手段とを有するろ過浄化装置において、

前記生成手段内に前記被処理流体を攪拌する被処理流体攪拌手段を有し、前記被処理流体攪拌手段中に被除去物を少なくとも殺菌もしくは酸化処理する処理手段を設けたことを特徴とするろ過浄化装置。

【請求項 2】

被処理流体中の被除去物を凝集、被除去物を捕捉結合した生成物を生成させる生成手段と、前記生成手段により前記生成物のサイズを前記被除去物のサイズより大きくし、前記生成物が通過できない目開きを有するろ過手段とを有するろ過浄化装置において、

前記生成手段内に前記被処理流体中の被除去物を少なくとも殺菌もしくは酸化処理する複数の処理手段と、前記処理手段の殺菌もしくは酸化処機能の低下を回復させる回復手段を設け、少なくとも殺菌もしくは酸化処機能が回復した 1 個以上の前記処理手段が浄化運転時に連続的に機能することを特徴とするろ過浄化装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

上記目的は、被処理流体中の被除去物を凝集、被除去物を捕捉結合した生成物を生成させる生成手段と、前記生成手段により前記生成物のサイズを前記被除去物のサイズより大き

くし、前記生成物が通過できない目開きを有するろ過手段とを有するろ過浄化装置において、前記生成手段内に前記被処理流体を攪拌する被処理流体攪拌手段を有し、前記被処理流体攪拌手段中に被除去物を少なくとも殺菌もしくは酸化処理する処理手段を設けたことにより達成される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

また、上記目的は、被処理流体中の被除去物を凝集、被除去物を捕捉結合した生成物を生成させる生成手段と、前記生成手段により前記生成物のサイズを前記被除去物のサイズより大きくし、前記生成物が通過できない目開きを有するろ過手段とを有するろ過浄化装置において、前記生成手段内に前記被処理流体中の被除去物を少なくとも殺菌もしくは酸化処理する複数の処理手段と、前記処理手段の殺菌もしくは酸化処機能の低下を回復させる回復手段を設け、少なくとも殺菌もしくは酸化処機能が回復した1個以上の前記処理手段が浄化運転時に連続的に機能することにより達成される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】